

## 処方せん以外の情報の重要性を再認識

こうした一連の事例収集によって、処方せん以外から得られる情報の重要性を再認識させられたという同委員会。現場の薬剤師の中には新たな疑義照会のあり方に気が付いた人もいたという。報告によって得られた情報を薬局間で共有すれば、薬剤師業務の情報源の1つとして活用でき、薬剤師の知識も一段と高まるとみている。

情報の収集を続けることは患者に対する安心・安全な医療の提供や信



(左) パソコンを使って内容を入力することも可能



(右) 調剤安全委員会のスタッフ

頼の確保に寄与するだけでなく、薬剤師の役割を改めて認識させ、従業員のモチベーションを高めることにもつながるとみる同委員会。情報源は効率的な薬学管理を行うための実

例集や安全な薬物治療を行うための資料に成り得るとして、委員会では今後、さらに情報の収集を図り、将来は同社独自のプレアボイド集を作成したいと考えている。



## CASE 2 後発品から先発品に戻った事例を収集・分析

ホロン(広島県) 一ノ瀬有記さん

### 独自の調査用紙を全店舗に

すずらん薬局グループのホロン(広島県)。同社の一ノ瀬有記さんは後発品に変更した後、先発品に戻った事例を収集し、分析を行った。後発品変更後に起こった問題を調査し、採用後発品について再検討するのが目的だ。

調査は昨年4月から9月にかけて実施した。対象は先発品から後発品に変更(後発品の銘柄変更も含む)した後、後発品が何らかの理由で中止になった事例だ。

一ノ瀬さんは独自の調査用紙を作成し、グループ全店舗に配布した。各店舗では事例を担当した薬剤師が各自記入。後発品が先発品に戻ったり、処方中止になったりしたケースを1件ととらえ、報告した。

調査用紙はA4サイズで、ここには調剤日(後発品を中止した日)、患者名、先発品名、先発品服用期間の有無、後発品名とそのメーカー名などの欄を作成。負担割合や医療機関名(診療科名)なども記入できるようにした。

中止になった後発品については

「処方薬ごと変更・中止された」のか、「先発品に戻った」のかを尋ね、先発品に戻った場合、さらに、①患者様に「先発品に戻してほしい」と言われた②処方せん、処方薬に「変更不可」が付いた③その他、後発品の欠品など—の中から選べるようにしている。

理由(複数回答可)は「副作用があらわれたから」「効果が弱まったから」「使用感、服用感が違うから」「その他」の4つを用意した。

用紙の頭には「すずらん薬局グループで推奨している後発品を再検討するために、後発品に変更した患者様にまつわる有害事象を症例として集め、検討する予定です」と、調査を行う理由も記した。

### 集めた症例は134件にも

この調査用紙などを使ってこれまでに集めた症例の数は134件。内訳は「患者様から先発に戻してほしい

アポウィル×アテック

# 薬局購入 独立支援

薬局のM&A(売買)がおこなわれていることをご存知ですか？  
医薬分業はピークを迎え、新規出店は多大な資金とリスクを考慮しなければなりません。  
そこでアポウィルでは、薬局のM&A(アテック店舗情報)により、「既存店の承継」という形で薬剤師の独立を支援しています。

## 面談から独立が始まる！

薬剤師の独立支援(薬局)アポウィル

●お申し込みは…  
お電話か Webで

03-3912-2291 (9時～18時)

<http://www.apowill.net/>

アポウィル 検索

## 独立開業のチャンスがやってくる！

薬局M&A・薬局譲渡・薬局売買  
は、この道18年のアテック

●アテックの店舗情報は…  
Pharma Marketで

<http://www.pharmamarket.jp/>

アテック 薬局売ります 検索

薬局譲渡をお考えの方は  
アテックにご相談ください

21世紀の薬局を元気にする！

**アテック株式会社**

0120-114-721(24時間受付)

株式会社 **アポウィル**

東京都北区王子2-14-15

と言われた」が103件、「『変更不可』になって先発に戻った」24件、「その他」6件、「処方薬ごと変更・中止」が1件となった。

理由はさまざまで、内訳は「効果」31%、「製剤」23%、「副作用」14%、「その他」32%となった。「その他」の中では「なんとなく」という理由が最も多く、「なんとなく、飲みにくかった」「なんとなく、効かないような気がする」といった声も聞かれた。一ノ瀬さんは薬剤師の後発品推奨への確信不足が患者への情報提供にあいまいさを残し、それが「なんとなく」中止の事例につながるとみている。

先発品のある後発品に代えた患者の中には「効きが強い気がする」として先発品に戻った例や「効かない気がする」として以前の残薬(後発品)に戻ったケースも見られた。中には「シートが他の薬と似ていて分かりにくい。先発の方が分かりやすい」として先発品に戻った事例もあった。一ノ瀬さんは「患者個々に、丁寧に対応する必要がある」とみている。

## 希望が二転三転した患者も

患者の中には希望が二転三転する人もいた。先発品のガスター錠を後発品のプロスターM錠に代えた70代のある女性患者は「プロスターM錠は溶けやすく、今までのガスター錠と違う感じがする。ガスター錠の方が良かった」と、元のガスター錠に戻した。

一方、ある60代の女性患者は「プロスターM錠は溶けやすいので、違和感がある」との理由でいったん、ガスター錠に戻したが、2カ月後、

「やはり、口の中で溶けて飲みやすかった」と再び、プロスターM錠に代えたという。

収集したこれらの情報はすべてパソコンに入力している一ノ瀬さん。これまで蓄積した情報や知識を生かしながら、「患者の要望を反映させ、後発品選びをより良くしたい」と話す。また今後、「事例の数がさらに増えたら、グラフ化してみたい」とも考えている。

## 「後発品検討委員会」発足

この一連の取り組みが1つのきっかけとなり、社内では昨年5月、「後発品検討委員会」が発足した。同委員会は薬剤師や事務ら計6人で構成している。

後発品に関してはこれまで、備蓄数充実を主眼に選定を行ってきたが、今後は患者から得られた情報やメーカーから得た情報などをもとに、同委員会が常に後発品をモニターしていく。将来は患者の視点から見た後発品選びのための基準を作り上げる方向だ。

現在、一部の薬局グループで推奨している後発品を自院に対するために、御薬局に変更した患者様に基づいて有言無言を把握して頂くため、種別や年齢など、後発品に変更したことで何かトラブルがありましたら、ご記入ください。

後発品品質評価と医師転業にご協力ください。

調査日(当薬局を申請した日)	年 月 日
患者氏名	
生年月日	M・T・S・D 年 月 日
負担割合	割
後発品名	( )
先発品名	( )
先発品服用期間	□あり( ) □なし □不明
後発品名(メーカー)	( )

◆中止になった後発品について記入してください。

□ 処方薬ごと変更・中止された。 詳細( )

□ 先発品に戻った。  
 トロ 患者様に「先発品に戻してほしい」と言われた。  
 トロ 処方箋、処方薬に「変更不可」が印された。  
 トロ その他、後発品の欠点など。

◆理由(複数回答可)

□ 副作用があらわれたから( )

□ 効果が弱くなったから( )

□ 使用感、服用感がからから( )

□ その他( )

◆対応した薬剤師(すべて名義漏れ) ( )名

◆何か気づきがありましたら、ご記入ください。

独自に作成した調査用紙